

極秘



漢

大正十年五月二十六日九江ヨリ南京ニ下航中

(第一報)

寺西秀武

情報部第二部

目録

- 一、今回支那旅行ノ主ナル調査目的
- 二、青島ニ在ル張樹元、馬良
- 三、山東ノ田督軍及其軍隊
- 四、張作霖ノ實力
- 五、曹錕ノ人格
- 六、段祺瑞及在北京安徽派
- 七、王士珍ノ談話
- 八、吳佩孚ノ人格ト其幕僚
- 九、吳ノ率エル第三師ノ實力

一、今回支那旅行ノ主ナル調査目的

- a、奉直兩派ノ爭因 (鬭爭ノ時機ヲ断定スルノ必要アルモ支那ノ内
爭ノ時機ヲ豫想スルハ頗ル困難ニシテ却ツテ誤ヲ來タスコト多
キヲ以テ單ニ爭ノ原因ヲ目的トセリ)
- b、右兩派ノ鬭爭ニ際シ安徽派ノ向背及其取ルヘキ行動
- c、右兩派鬭爭ニ際シ各省ノ向背
- d、各派及各省ノ實力ノ比較
- e、現在ニ於ケル各派各省ノ連結ト反目
- f、國會議員ノ選舉實情

二、青島ニ於ケル張樹元ト馬良

小生去ル四月二日青島ニ着シ張樹元ト同宿シ四回張馬兩人ト密談
ヲ交ヘタリ

右兩者ハ表面何等野心無キヲ如ク粧ヒ在青島日支兩國人ハ概ンテ

之ヲ信シツ、アルモ其實兩者ハ依然殷祺瑞及盧永祥ヲ推戴シ（張
ハ盧ニ傾キ馬ハ殷ヲ崇拜シツ、アリ）奉直ノ争ニ乗シテ再ヒ事ヲ
舉クルノ意志ヲ有ス

張ハ従来其部下シリシ第五師ノ過半ヲ其掌裡ニ歸シ得可ク

馬ハ其旧部下混成第四十七旅全部ト今猶連絡ヲ通シ事アルニ當リ
テハ其全部ヲ指揮シ得ルナラン（現旅長施從濱ハ純安徽派ニシテ
團長以下ノ各將校ハ全部馬良ノ旧部下ナリ）

馬良密カニ生ニ談リテ曰ク張ハ約四百万元ノ富（過半ハ現金）ヲ有シ
事アルニ當リテ若シ安徽派カ山東督軍ノ位置ヲ與フルヲ約束セハ
彼ハ少クモ百五十万元ヲ出資スルノ意思ヲ有ス

馬良ハ支那武術ヲ上海ニ於テ實施スル名義ヲ以テ上海ニ赴キ盧永
祥ト連絡スルノ企圖ヲ有セリ

張ハ聰明ニシテ火勢ヲ觀察スルノ明アルモ彼ハ日々亜片ヲ多飲シ

（三）

賭博ヲ事トシツ、アルヲ以テ縱令支那通有性トハ云ヘ果シテ再舉
ノ勇氣アルヤ否ヤ大ニ疑ハサルヲ得ス

靳雲鵬ハ田中王ニ命シテ馬良ニ毎月銀千元ノ俸給ヲ贈ラシメタリ
シニ田中此事カ曹錕ノ耳ニ入リタル場合ニ嫌疑ヲ受クル恐レアル
ヲ以テ毎月銀五百元ヲ贈リツ、アリテ馬良ハ之ヲ辞シツ、アノ

三、山東ノ田督軍及其軍隊

小生ハ去ル四月十一日（途中博山ニ立寄り時日ヲ遷延セリ）濟南ニ
着シ田督軍、師長鄭士琦、旅長施從濱、全徐鴻賓、全靳雲鵬（靳雲鵬ノ實弟
ニテ鄭州駐屯ナルモ當時濟南ニ在リシ）其他參謀長副官長及團長等
ト會見セリ

田督軍ハ赴任以來未タ一回タモ軍隊ノ操練及兵營ヲ巡視シタルコ
ト無ク金ク部下ニ放任シツ、アリ從ツテ威望ニ乏シク事アルニ際
シ其軍隊ハ督軍ノ命ニ従ハサルナラン

軍隊の過半は安徽派ニシテ一部靳雲鵬派ヲ混ス
師長、旅長、團長等ハ概シテ交遊ヲ事トシ操練ニ出場スルコト極メテ
稀ナリ從ツテ軍隊ハ漸次退歩セツ、アリ
過日江西督軍陳光遠ハ生ニ談ツテ曰ク山東ノ軍隊ハ約二ヶ年間に
一回ノ野外演習ヲ行ヒタルコトナシト
田督軍ニ兵權無ク其地位不安ナルヲ以テ彼ハ張作霖、曹錕、王占元、盧
永祥等ニ八方美人的ニ款ヲ通シツ、アリ而シテ右諸方トノ使者ノ
往復頻繁ナルヲ見ル

四、張作霖ノ實力

(生ハ去ル四月十四日天津ニ着シ五月八日返天津及北京ニ滞在シツ
、アリシカ時恰モ巡閱使會議ニ際シ彼等大官ト長談ヲ交ユルコト
不可能ナリシヲ以テ數多ノ中流階級者ニ接シ間接ニ張曹等ノ實力
ヲ調査セリ)

(三)

張ノ幕僚ニハ王永江ノ外人才皆無ナルコトハ數多支那人ノ認ムル
所ナリ

彼ノ軍隊ハ概シテ一家即党ヲ集メタルモノナルヲ以テ上下相親ハ
ノ利アルモ師旅長ニ統帥ノ學ヲ實驗無ク殊ニ北支那ノ戰ニ重要ナ
ル砲兵ハ數理的ノ射撃ヲナス能ハサルヲ以テ全ク無用ノ害物ニ等
シ今日ハ數多ノ支那將校モ奉天軍ノ頗ル劣弱ニシテ一旦直軍ト
戰端ヲ開カンカ直ニ敗北スルモノト認メツ、アリ

五、曹錕ノ人格

曹錕ハ小生ノ在保定時代ヨリ旧知ナルヲ以テ生ハ能ク彼ノ人ト為
リヲ知ル彼ハ學識ニ乏シク才氣無ク頗ル溫順ナル人物ナリ然ルニ
彼ノ部下ニ吳佩孚、王承斌、馮玉璋、蕭耀南等ノ名將ト趙玉珂、熊炳
琦等ノ良參謀ヲ收メ然カモ能ク彼等ヲ統御シツ、アルハ頗ル不可
思議ノ事ナリ曹ニ果シテ人ヲ着ル明ト人ヲ容ル、ノ量アルヤ或ハ

曹ハ其部下ノ傀儡ニ非サルヤ是レ曹ノ將來ヲ判斷スルニ最重要ナル根基ヲナスモノナリ

熊炳琦ハ陸軍大學出身中無二ノ才物ナリ昨秋曹カ熊ヲ參謀長ニ採用シタル事情ヲ探究シタルニ先ヅ張聯芬、李炳之、趙玉珂、師景雲及熊ノ五名ヲ選擇シ比較研究ノ結果遂ニ熊ニ決定シ張聯芬及ヒ李炳之ノ人物ヲ惜ミテ西人ニ諮議ノ職ヲ与ヘタリ

曹ハ軍事其他ニ関シ吳佩孚ニ委任スルコト頗ル多キモ人事ニ関シテハ曹自ラ之ヲ處理スルコト多シト云フ(數多ノ直隸派ノ言)

曹ハ部下ノ會議ニ臨ミ常ニ不得要領ニシテ何等決スルコト無キモ心中密ニ決シツ、アルナラン(張聯芬、李炳之等ノ言)

以上ノ事情及其他ノ見聞ヲ綜合シテ曹ノ人格ヲ研究シ益々疑團ヲ増シ大ニ判斷ニ苦ノリ(來月再ヒ此支那赴キ之ヲ研究スル豫定ナリ)

(四)

六、段祺瑞及在北京ノ安徽派

段ノ宅ヲ訪問シタルニ王照(翰林ニテ先年我邦ニ亡命シ明治三十九年頃ヨリ段ノ食客トナレリ)張國英(國務院秘書ニテ王揖唐ノ乾兄)吳中漢(陸軍中將無職)及其他二三ノ其客ハ其ヲ圍ミ段ハ玉突ヲナシ別室ニテ生ヲ引見シ長談ヲ交ヘタリ

王照曰ク張作霖ニレテ萬一復辟ノ舉ニ出ルニトアラシカ段ノ一身ハ頗ル危險ナルヲ以テ成ル可ク早ク其舉アルヤ否ヤヲ豫察シ天津ニ逃出セラレテハ如何昨今安徽派諸人士ハ皆之ヲ憂慮シツ、アリ

段答テ曰ク今日迄探聞シタル所ニ依ルニ張作霖ハ復辟ヲ為サハル筈ニシテ將來萬一此舉ニ出ルコトアルモ余ノ一身ニ危險無ク余カ北京ニ住居シタルコトハ復辟ヲ防止スルニ若干ノ力トナルコトト信スル故余ハ如何ナル事變アルトモ逃出セサル決意ナリト

段ハ数年前ニ比シ稍老衰セリ昨今佛教ニ耽リ囲碁玉突等ヲ事トス
將來再ヒ出馬スルコトアルモ一傀儡トナリテ終ラシカ
段ノ邸宅ハ現今奉直軍隊ノ監視護衛スルモノ無ク逃出ハ頗ル容易
ナリ
安徽派タル旧旅長張學言、胡叔麒、旧講武堂長陶雲鵬等ハ皆揚子江畔
ニ旅行シテ不在ナリシ探聞スルニ彼等ハ各省ヲ歴遊シタル後杭州
ニ赴ケリト盧永祥ハ彼等ト共ニ何事ヲ画策シツ、アリヤ火ニ注意
ヲ要スルカト思フ

七、王士珍ノ談話

王士珍ヲ訪ヒ長談ヲ交ヘタルニ彼ノ談ル所大要左ノ如シ
張曹、王等ハ皆小人物ニシテ天下ヲ統一スルノ器ニ非ス支那ハ當
今内亂續出スヘレ余ハ如何ナル事情アリトモ再ヒ政界ニ立タサル
固キ決心ヲ有ス

(五)

八、吳佩孚ノ人格ト其幕僚

小生ハ去ル五月十三日早朝洛陽西方ノ西宮ニアル第三師司令部ニ
赴キテ吳ヲ訪ヒ此ニ一泊シ十三日夕迄吳及其幕僚ト寢食ヲ共ニ
シ長談ヲ交ヘタリ

吳ノ人格ニ付キ昨秋小生ヨリ木村課長宛ニ通報シ置キタリ今回再
ヒ彼ヲ試ミタルモ全ク該通報ト同一ナルヲ以テ御再讀ヲ乞フ

吳ハ政界ニ雄飛スル策士ニ非スシテ純然タル武將ナリ彼ハ毎日練
兵場ニ赴キテ軍隊ヲ訓練シ彼ノ腦力ノ全部ヲ是ニ傾ケツ、アリ邦
人カ吳ト面談シタルコト無クシテ唯想像ノミヲ以テ吳ト孫洪伊ト
密接ナル連絡アリト云ヒ(孫ノ偽言ヲ信スル事モ一因ナリ)吳ヲ政界
ノ策士ト云ヒ吳ヲ親米ト云フハ大ナル誤リナリ生ハ歸國後委細詳
陳セン

吳ノ參謀長李濟臣ハ陸軍大學出身ノ俊才ナリ大人物ニ非ルモ事務

ヲ處理スル頗ル敏捷ニシテ軍事ニ通ス然レトモ政治的智識ナシ
吳ノ諮議官陸軍少將夏國楨(号麟書)ハ湖北人ニテ湖北武備學堂出身
シルモ光緒末年頃ヨリ長沙ニ赴キ湖南軍隊ノ教練官トナリ第一次
革命ノ際湖南ノ蘇都督殺害ノ主謀者トナリ湖南軍ヲ漢陽ニ出動セ
シハルニモ大ニ努力セリ其後黃興ニ従ヒ南京光復軍ノ參謀トナリ
黃敗走後ハ熊希齡、李燾和等ト交ハリ趙恒惕トハ共ニ同隊ノ教練
官タリシ關係上深交アリ夏ハ吳佩孚ノ隣室ニ起居シ最モ重用セラ
ル吳ハ湖南廣西廣東并ニ対スル政策ハ夏ノ画策ニ依ルコト多シト
云フ夏ハ奇策縦横ノ才物ニシテ吳幕僚中唯一ノ人物ナルモ彼ハ
湖北人タル關係上吳ハ若干ノ疑心ヲ以テ唯彼ノ才學ノミヲ利用シ
ツハアルカ如シ夏ハ家族無キニ係ハラス洛陽城内ニ別ニ一家ヲ借
リ他省ヨリ來客ノ接見ニ供シテハアリ

夏ト同室ニ諮議官周召南(号香圃)起居ス周ハ文人墨客ニシテ性負
頗ル誠實温順ナリ吳ト同郷ナル關係上吳ハ唯彼ノ學問ヲ利用シ
ルカ如シ

秘書長呂爾臣ハ秀才出身ノ學者ニシテ直隸省滄州人ナリ彼モ頗ル
温良恭謙人ニシテ才氣ニ乏シ

諮議陳少璋ハ直隸出身ノ文人ニシテ漢文ニ長シ稍才氣アリ常ニ李
參謀長ト事ヲ共ニシワ、アリ

諮議李岑暉モ文人ニシテ温順ニテ才氣ニ乏シキ人物ナリ
右ノ外劉筱舟、張魯泉ノ學者アルモ生ハ面談シ得サリシ

教育長李成霖(号蔭堂)ハ日本留學第一期生(士官學校)ナルモ性負温
良ニシテ魯爾ナルヲ以テ吳ニ重用セラレタ唯吳ト同郷ノ關係上食
客的ニ待遇シアルモノ、如シ

秘書鄭緒棟(号梁丞)ハ光緒三十年頃ヨリ殷芝貴ノ文案タリシカ清
朝滅亡後直チニ郷里山東ニ歸卧シ最近吳ノ門ニ投セリ彼モ學者ナ

ルモ才氣ニ乏シ

大統領府軍事諮議兼巡閱副使ノ顧問タル遼雲鵬(号程九)ハ生カ在
定ノ時鉄良ノ率ニル第一鎮ノ營務處課長トシテ生ト深交アリ彼ハ
僅クニ英語ヲ解シ海軍水雷等ノ學識アルモ陸軍ノ學識無ク漢文
モ先ツ普通ナリ性質稍輕平ナルモ頗ル情誼ニ富ム彼ハ吳ト同村ノ
隣家ニシテ親戚ナルヲ以テ吳ト最モ親シク彼ハ屢々熱心ニ生ニ左
ノ事ヲ談レリ

吳ヲ日本ニ接近セシメ兩國ノ親近ヲ謀ルヲ要ス其目的ノ為ノ彼
ハ極力吳ト西下ノ間ニ立チテ努力セント

右ノ外諮議官孫某ナル者アリテ頗ル外交ノ才智アリ屢々他省ニ使
スル由ナルモ生ハ面談ノ機無カリシ

以上列挙スル如ク吳ノ幕僚中稍々政治的色彩ヲ帶フリ人物ハ唯復
麟書一人アルハミニシテ他ハ皆凡庸ノ士ナリ吳カ昨年以來時ニ民

(七)

会ヲ称ヘ張作霖ノ横暴ニ反抗シ王占元ヲ負財ヲ罵倒シ近ク選舉ニ
反對シタル如キハ皆術策ニ非スシテ彼ノ純朴ニシテ清潔ナル精神
ノ發露ナリ唯吳カ近來省ノ何レヲ問ハス軍事の少壯人才ヲ集収
(一項ニ詳述セシ)シアル實ハ大ニ南北ハ支那人士ヲミテ吳ノ野心ノ
大ナルコトヲ疑ハシメツハアリ

九、吳ノ率ニル第三師ノ實力

生ハ去ル五月十三日早朝ヨリ吳ト共ニ第三師歩騎砲工輜重全部
ノ操練ヲ巡視セリ

兵器ハ概シテ參戰軍ノ所有タリシ我邦製ヲ用ヒ就中大ニ六釐式山
砲ノ射法及其動作ヲ熱心ニ訓練シツハアリシニ一驚ヲ喫シタリ此
兵器ハ概シテ昨年洛陽ニ駐屯シタル遼防軍混成旅ニ旅ヲ解散
シ兵器ヲ没収シタルモノナリ)

操練ハ吾人カ保定時代ニ教育ヲ襲用シタルノミニシテ大ナル價值無

ト雖モ是ヲ確實ニ熱心ニ實行シタル事ハ當今ノ支那軍中ニ冠タル所以ナリ

四川湖南ノ戰ニ從事シタル兵ノ大部ハ既ニ解散シ一部ハ將校下士ニ昇進シ十七歳以上二十三歳以下ノ少壯者ヲ募リテ之ヲ補充シタリ

第三師内ニ在ル總テノ人員就中入夫、料理人、十三歳乃至十六歳ノボトイニ至ル迄毎日確實ニ學科、術科ヲ教育シ實戰ノ準備ニ及タルコトハ實歎ニ價ス

巡視中、學兵ノ連長(中隊長)ニ湖北荊州ノ旗人炳昌(生カ湖北ニ教育シタル最優等生)アルヲ見彼ニ第三師ニ投シタル原由ヲ聞キタルニ其答フル所左ノ如シ

余ハ保定軍官學堂ノ教員タリニカ吳カ各省ノ軍事的人才ヲ集メタルコトヲ聞キ今春保定ヨリ直接吳ニ書信ヲ發シ其招ギニ應ニ

(八)

テ此所ニ投シタリト

第三師カ駐屯シツハアル兵營ハ袁世凱カ民國二年ニ大金ヲ投シテ建築シタルモノニシテ各省兵營中最良ノモノナリカモ猶小修繕ヲ加ヘ盛ニ樹木草花ヲ植ヘ支那ニ於テ稀ナル情緒ト壯觀ヲ保テリ

以上ヲ綜合シテ觀察スルニ第三師ノ實戰的能力ハ他省ニ於テ其比ヲ見ス(猶詳細ハ後目録述スルコトアルニシ)

極秘

大正十年五月二十六日九江ヨリ南京ニ下航中

(第一報)

寺西秀武

情報部第一部

目録

- 一、今回支那旅行ノ主ナル調査目的
- 二、青島ニ在ル張樹元、馬良
- 三、山東ノ田督軍及其軍隊
- 四、張作霖ノ實力
- 五、曹錕ノ人格
- 六、段祺瑞及在北京安徽派
- 七、王士珍ノ談話
- 八、吳佩孚ノ人格ト其幕僚
- 九、吳ノ率ユル第三師ノ實力

一、今回支那旅行ノ主ナル調査目的

- a、秦直西派ノ争因(鬭争ノ時機ヲ断定スルノ必要アルモ支那ノ内争ノ時機ヲ豫想スルハ頗ル困難ニシテ却ツテ誤ヲ來タスコト多キヲ以テ單ニ争ノ原因ヲ目的トセリ)
- b、右西派ノ鬭争ニ際シ安徽派ノ向背及其取ルヘキ行動
- c、右西派鬭争ニ際シ各省ノ向背
- d、各派及各省ノ實力ノ比較
- e、現在ニ於ケル各派各省ノ連結ト反目
- f、國會議員ノ選舉實情

二、青島ニ於ケル張樹元ト馬良

小生去ル四月二日青島ニ着シ張樹元ト同宿シ四回張馬兩人ト密談ヲ交ヘタリ
右兩者ハ表面何等野心無キカ如ク粧ヒ在青島日支兩國人ハ概シテ

大正十年五月廿四日記録係接受

之ヲ信シツ、アルモ其實兩者ハ依然段祺瑞及盧永祥ヲ推戴シ一張
ハ盧ニ傾キ馬ハ段ヲ崇拜シツ、アリ）奉直ノ争ニ乘ニテ再ヒ事ヲ
舉クルノ意志ヲ有ス

張ハ從來其部下クリシ第五師ノ過半ヲ其掌裡ニ歸シ得可ク

馬ハ其旧部下混成第四十七旅全部ト今猶連絡ヲ通シ事アルニ當リ
テハ其全部ヲ指揮シ得ルナラン（現旅長施從濱ハ純安徽派ニシテ
團長以下ノ各將校ハ全部馬良ノ旧部下ナリ）

馬良密カニ生ニ談リテ曰ク張ハ約四百万元ノ富（過半ハ現金）ヲ有シ
事アルニ當リテ若シ安徽派カ山東督軍ノ位置ヲ與フルヲ約束セハ
彼ハ少クモ百五十萬元ヲ出資スルノ意思ヲ有ス

馬良ハ支那武術ヲ上海ニ於テ實施スル名義ヲ以テ上海ニ赴キ盧永
祥ト連絡スルノ企圖ヲ有セリ

張ハ聰明ニシテ火勢ヲ觀察スルハ明アルモ彼ハ日々亜片ヲ多飲シ

（三）

賭博ヲ事トシツ、アルヲ以テ縱令支那通有性トハ云ヘ果シテ再舉
ノ勇氣アルヤ否ヤ大ニ疑ハサルヲ得ス

靳雲鵬ハ田中玉ニ命シテ馬良ニ毎月銀千元ノ俸給ヲ贈ラシメタリ
シニ田ハ此事カ曹錕ノ耳ニ入リタル場合ニ嫌疑ヲ受クル恐レアル
ヲ以テ毎月銀五百元ヲ贈リツ、アリテ馬良ハ之ヲ辞シツ、アノ

三、山東ノ田督軍及其軍隊

小生ハ去ル四月十一日（途中博山ニ立寄り時日ヲ遷延セリ）濟南
着シ田督軍、師長鄭士琦、旅長施從濱、全徐瑞賓、全靳雲鵬（靳雲鵬ノ實弟
ニテ鄭州駐屯ナルモ當時濟南ニ在リシ）其他參謀長副官長及團長等
ト會見セリ

田督軍ハ赴任以來未タ一回タモ軍隊ノ操練及兵營ヲ巡視シタルコ
ト無ク全ク部下ニ放任シツ、アリ從ツテ威望ニ乏シク事アルニ際
シ其軍隊ハ督軍ノ命ニ従ハサルナラン

軍隊、過半ハ安徽派ニシテ一部靳雲鵬派ヲ混ス
師長、旅長、團長等ハ概シテ交遊ヲ事トシ操練ニ出場スルコト極メテ
稀ナリ從ツテ軍隊ハ漸次退歩シツ、アリ

過日江西督軍陳光遠ハ生ニ談ツテ曰ク山東ノ軍隊ハ約ニケ年間一
回ノ野外演習ヲ行ヒタルコトナシト
田督軍ニ兵權無ク其地位不安ナルヲ以テ彼ハ張作霖、曹錕、王占元、盧
永祥等ニ八方美人的ニ款ヲ通シツ、アリ而シテ右諸方トノ使者ノ
往復頻繁ナルヲ見ル

四、張作霖ノ實力

(生ハ去ル四月十四日天津ニ着シ五月八日返天津及北京ニ滞在シツ
、アリシカ時恰モ巡閱使會議ニ際シ彼等大官ト長談ヲ交ユルコト
不可能ナリシヲ以テ數多ノ中流階級者ニ接シ間接ニ張曹等ノ實力
ヲ調査セリ)

(三)

張ノ幕僚ニハ王永江ノ外人才皆無ナルコトハ數多支那人ノ認ムル
所ナリ

彼ノ軍隊ハ概シテ一家郎黨ヲ集メタルモノナルヲ以テ上下相親ム
ノ利アルモ師旅長ニ統帥ノ學力實驗無ク殊ニ北支那ノ戰ニ重要ナ
ル砲兵ハ數理的ノ射撃ヲナス能ハサルヲ以テ全ク無用ノ害物ニ等
シ今日ハ數多ノ支那將校モ奉天軍ノ頗ル劣弱ニシテ一旦直軍ト
戰端ヲ開カンカ直ニ敗北スルモノト認メツ、アリ

五、曹錕ノ人格

曹錕ハ生ノ在保定時代ヨリ旧知ナルヲ以テ生ハ能ク彼ノ人ト為
リヲ知ル彼ハ學識ニ乏シク才氣無ク頗ル溫順ナル人物ナリ然ルニ
彼ノ部下ニ吳佩孚、王承斌、馮玉璋、蕭耀南等ノ名將ト趙玉珂、熊炳
琦等ノ良參謀ヲ收メ然カモ能ク彼等ヲ統御シツ、アルハ頗ル不可
思議ノ事ナリ曹ニ果シテ人ヲ着ル明ト人ヲ容ル、ノ量アルヤ或ハ

曹ハ其部下ノ傀儡ニ非サルヤ是レ曹ノ將來ヲ判斷スルニ最重要ナル根基ヲナスモノナリ

熊炳琦ハ陸軍大學出身中無二ノ才物ナリ昨秋曹カ熊ヲ參謀長ニ採用シタル事情ヲ探究シタルニ先ヲ張聯芬、李炳之、趙玉珂、師景雲及熊ノ五名ヲ選擇シ比較研究ノ結果遂ニ熊ニ決定シ張聯芬及ヒ李炳之ノ人物ヲ惜ミテ西人ニ諮議ノ職ヲ与ヘタリ

曹ハ軍事其他ニ関シ吳佩孚ニ委任スルコト頗ル多キモ人事ニ関シテハ曹自ラ之ヲ處理スルコト多シト云フ(數多ノ直隸派ノ言)

曹ハ部下ノ會議ニ臨ミ常ニ不得要領ニシテ何等決スルコト無キモ心中密ニ決シツハアルナラン(張聯芬、李炳之等ノ言)

以上ノ事情及其他ノ見聞ヲ綜合シテ曹ノ人格ヲ考究シ益々疑團ヲ増シ大ニ判斷ニ苦ノリ(來月再ヒ此支那ニ赴キ之ヲ研究スル豫定ナリ)

(四)

六、段祺瑞及在北京ノ安徽派

段ノ宅ヲ訪問シタルニ手照(翰林ニテ先年我邦ニ亡命シ明治三十九年頃ヨリ段ノ食客トナレリ)張國英(國務院秘書ニテ王揖唐ノ乾兒)吳中英(陸軍中將無職)及其他二三ノ基客ハ其基ヲ固ニ段ハ王突ヲナシ別室ニテ生ヲ引見シ長談ヲ交ヘタリ

小生問テ曰ク張作霖ニシテ萬一復辟ノ舉ニ出ルコトアランカ段ノ一身ハ頗ル危險ナルヲ以テ成ル可ク早ク其舉アルヤ否ヤ豫察シ天津ニ逃出セテレハ如何昨今安徽派諸人士リ皆之ヲ憂慮シツアリ

段答テ曰ク今日迄探聞シタル所ニ依ルニ張作霖ハ復辟ヲ為サ、ル筈ニシテ將來萬一此舉ニ出ルコトアルモ余ノ一身ニ危險無ク余カ北京ニ住居シアルコトハ復辟ヲ防止スルニ若干ノ力トナルコトト信スル故余ハ如何ナル事變アルトモ逃出セサル決意ナリト

段ハ数年前ニ比シ稍充衰セリ昨今佛教ニ耽リ囲碁玉突等ヲ事トス
將來再ヒ出馬スルコトアルモ一億圓トナリテ終ラシカ
段ノ邸宅ハ現今奉直軍隊ノ監視護衛スルモノ無ク逃出ハ頗ル容易
ナリ

安徽派タル旧旅長張學言、胡叔麒、旧諒武堂長陶雲鶴等ハ皆揚子江畔
ニ旅行シテ不在ナリニ探聞スルニ彼等ハ各省ヲ歴遊シタル後杭州
ニ赴ケリト盧永祥ガ彼等ト共ニ何事ヲ画策シツ、アリヤ火ニ注意
ヲ要スルカト思フ

七、王士珍ノ談話

王士珍ヲ訪ヒ長談ヲ交ヘタルニ彼ノ談ル所大要左ノ如シ
張曹、王等ハ皆小人物ニシテ天下ヲ統一スルノ器ニ非ス支那ハ當
分内乱續出スヘシ余ハ如何ナル事情アリトモ再ヒ政界ニ立タサル
固キ決心ヲ有ス

(五)

八、吳佩孚ノ人格ト其幕僚

小生ハ去ル五月十三日早朝洛陽西方ノ西宮ニアル第三師司令部ニ
赴キテ吳ヲ訪ヒ此ニ一泊シ十三日夕迄吳及其幕僚ト寢食ヲ共ニ
シ長談ヲ交ヘタリ

吳ノ人格ニ付キ昨秋小生ヨリ木村課長宛ニ通報シ置キタリ今回再
ヒ彼ヲ試ミタルモ全ク諒通報ト同一ナルヲ以テ御再讀ヲ乞フ

吳ハ政界ニ雄飛スル策士ニ非スニテ純然タル武將ナリ彼ハ毎日練
兵場ニ赴キテ軍隊ヲ訓練シ彼ノ腦力ノ全部ヲ是ニ傾ケツ、アリ邦
人カ吳ト面談シタルコト無クシテ唯想像ノミヲ以テ吳ト孫洪伊ト
密接ナル連絡アリト云ヒ(孫ノ偽言ヲ信スル事モ一因ナリ)吳ヲ政界
ノ策士ト云ヒ吳ヲ親米ト云フハ大ナル誤リナリ生ハ歸國後委細詳
陳セン

吳ノ參謀長李濟臣ハ陸軍大學出身ノ俊才ナリ大人物ニ非ルモ事務

ヲ處理スル頗ル敏捷ニシテ軍事ニ通ス然レトモ政治的智識ナシ
吳ノ諮議官陸軍少將夏國楨(字麟書)ハ湖北人ニテ湖北武備學堂出身
シルモ光緒末年頃ヨリ長沙ニ赴キ湖南軍隊ノ教練官トナリ第一次
革命ノ際湖南ノ蕉都督殺害ノ主謀者トナリ湖南軍ヲ漢陽ニ出動セ
シタルニモ大ニ努力セリ其後黃興ニ從ヒ南京光復軍ノ參謀トナリ
黃敗走後ハ熊希齡李燾和等ト交ハリ趙恒惕トハ共ニ同隊ノ教練
官タリシ關係上深交アリ夏ハ吳佩孚ノ隣室ニ起卧シ最モ重用セラ
ル吳ノ湖南廣西廣東并ニ對スル政策ハ夏ノ画策ニ依ルコト多シト
云フ夏ハ奇策縱横ノ才物ニシテ吳幕僚中唯一ノ人物ナルモ彼ガ
湖北人タル關係上吳ハ若干ノ疑心ヲ以テ唯彼ノ才學ノミヲ利用シ
ツバアルカ如シ夏ハ家族無キニ係ハラズ洛陽城内ニ別ニ一家ヲ借
リ他省ヨリ來客ノ接見ニ供セツバアリ
夏ト同室ニ諮議官周召南(字香圃)起卧ス周ハ文人墨客ニシテ性負

頗ル誠實溫順ナリ吳ト同郷ナル關係上吳ハ唯彼ノ學問ヲ利用シテ
ルカ如シ

秘書長呂爾聖臣ハ秀才出身ノ學者ニシテ直隸省滄州スナリ彼モ頗ル
溫良恭謙ノ人ニシテ才氣ニ乏シ

諮議陳少璋ハ直隸出身ノ文人ニシテ漢文ニ長シ稍才氣アリ常ニ李
參謀長ト事ヲ共ニシツバアリ

諮議李岑暎モ文人ニシテ溫順ニテ才氣ニ乏シ人物ナリ

右ノ外劉筱舟張魯泉ノ學者アルモ生ハ面談シ得ザリシ

教育長李成霖(字蔭堂)ハ日本留學第二期生(士官學校)ナルモ性復溫

良ニシテ魯頌ナルヲ以テ吳ニ重用セラレス唯吳ト同郷ノ關係上食

客的ニ待遇シアルモノ、如シ

秘書郭緒棟(字梁丞)ハ光緒三十年頃ヨリ段芝貴ノ文案タリシカ清
朝滅亡後直チニ郷里山東ニ歸卧シ最近吳ノ門ニ投セリ彼モ學者ナ

ルモ才氣ニ乏シ

大統領府軍事諮議兼巡閱副使ノ顧問タル遼雲鵬(号程九)ハ生カ在
定ノ時鉄良ノ率ナル第一鎮ノ營務處課長トシテ生ト深交アリ彼ハ
僅クニ吳語ヲ解シ海軍水雷學ノ識アルモ陸軍ノ學識無ク漢文
モ先ツ普通ナリ性質稍輕平ナルモ頗ル情誼ニ富ム彼ハ吳ト同村ノ
隣家ニシテ親戚ナルヲ以テ吳ト最モ親シク彼ハ屢々熱心ニ生ニ左
ノ事ヲ談レリ

吳ヲ日本ニ接近セシメ西國ノ親近ヲ謀ルヲ要ス其目的ノ為メ彼
ハ極力吳ト西トノ間ニ立チテ努力セント

右ノ外諮議官孫某ナル者アリテ頗ル外交ノ才智アリ屢々他省ニ使
スル由ナルモ生ニ面談ノ機無カリシ

以上列挙スル如ク吳ノ幕僚中稍々政治的色彩ヲ帶フリ人物ハ唯復
麟書一人アルノミニシテ他ハ皆凡庸ノ士ナリ吳カ昨今以來時ニ民

(七)

会ヲ称ヘ張作霖ノ横暴ニ反抗シ王台元ノ貪財ヲ罵倒シ近ク選舉ニ
反対シタル如キハ皆術策ニ非スシテ彼ノ純朴ニシテ清潔ナル精神
ノ發露ナリ唯吳カ近來省ノ何レヲ問ハス軍事的少壯人才ヲ集収
(次項ニ詳述セシ)シアル實ハ太ニ南北ノ支那人士ヲシテ吳ノ野心ノ
大ナルコトヲ疑ハシメツ、アリ

加、吳ノ率ユル第三師ノ實力

ハ生ハ去ル五月十三日早朝ヨリ吳ト共ニ第三師歩騎砲工輜重全部
ノ操練ヲ巡視セリ

兵器ノ概シテ參戰軍ノ所有タリシ我邦製ヲ用ヒ就中大ニ六等式山
砲ノ射法及其動作ヲ熱心ニ訓練シツ、アリシニ一驚ヲ喫シタリ(此
兵器ハ概シテ昨年洛陽ニ駐屯シタリタル遼防軍混成旅ニ旅ヲ解散
シ兵器ヲ沒収シタルモノナリ)

操練ハ吾人カ保定時代ニ教育ヲ襲用シアルノミニシテ大ナル價值無

ト云モ是ヲ確實ニ熱心ニ實行シタル事ハ當今ノ支那軍中ニ冠タル所以ナリ

四川湖南ノ戦ニ後事シタル死兵ノ大部ハ既ニ解散シ一部ハ將校下士ニ昇進シ十七歳以上二十三歳以下ノ少壯者ヲ募リテ之ヲ補充シタリ

第三師内ニ在ル總テノ人員就中人夫、料理人、十三歳乃至十六歳ノボーイニ至ル迄毎日確實ニ學科、術科ヲ教育シ實戰ノ準備ニ及々タルコトハ賞歎ニ價ス

巡視中隊兵ノ連長(中隊長)ニ湖北荊州ノ旗人炳昌(生カ湖北ニ教育シタル最優等生)アルヲ見彼ニ第三師ニ投シタル原由ヲ聞キタルニ其答アル所ノ如シ

余ハ保定軍官學堂ノ教員タリシカ吳カ各省ノ軍事的人才ヲ集收スルコトヲ聞キ今春保定ヨリ直接吳ニ書信ヲ發シ其招キニ應シ

(ハ)

テ此所ニ投シタリト

第三師カ駐屯シツ、アル兵營ハ袁世凱カ民國二年ニ大金ヲ投シテ建築シタルモノニシテ各省兵營中最良ノモノナリ然カモ猶小修繕ヲ加ヘ盛ンニ樹木草花ヲ植ヘ支那ニ於テ稀ナル情態ト壯觀ヲ保テリ

以上ヲ綜合シテ觀察スルニ第三師ノ實戰的能力ハ他省ニ於テ其比ヲ見ス(猶詳細ハ後日編述スルコトアルニシ)